



# 令和8年度事業計画

社会福祉法人 京都総合福祉協会

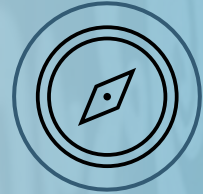
# MOTTO：共生を 目指す創造的実践

VISION：「共に生きる」  
社会の実現

利用者の尊厳と人権を守り、  
地域に根ざした信頼される福祉  
を構築する。

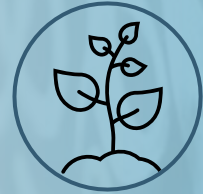


# 目次



## I 協会全体の事業及び経営の重点方針

人財育成/DX・AX推進/職場環境



## II 研修



## III 事業予算（概要）



## IV 各事業所の計画

暮らし・通う・児童・高齢・居宅・相談



## V SDGs、地域における公益的な取組

# I 協会全体の事業及び経営の重点方針

## 重点方針①：職員の育成と定着

### 「新人職員育成制度 (トレーナー制度)」の創設

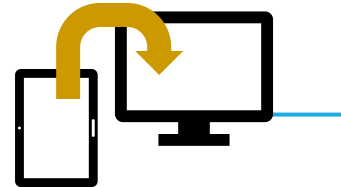
令和8年度を準備・移行期  
としてトレーナーを養成し、  
新人職員を組織全体で  
育てる仕組みの標準化  
を推進する。



年間採用目標：20名

- ・デジタル媒体の活用
- ・FUKUSHI meets!への積極参加
- ・外国人材の複数名採用

# 重点方針②：DXからAX（AIトランスフォーメーション）へ



## AIを「特別なツール」から「日常のインフラ」へ

- ・新しい支援記録システムの順次導入 音声入力・要約の定着。
- ・各部署にAI活用の伴走者となる担当者を配置。
- ・生成AIによる事務負担軽減→直接支援の質を高める。

AX：生成AI等により、支援記録の分析や計画策定の補助を行うなど、福祉現場のDXを加速させる取組。経験や勘に頼るだけでなく、蓄積されたデータをAIが客観的に解析することで、より根拠に基づいた質の高い支援への転換を目指す。

# 重点方針③：管理職の働き方改革と 心理的安全性の高い職場づくり

## 管理者の働き方 改革

- ・ 係長級以上の負担軽減、  
残業時間の削減  
（業務集中の原因分析と  
事務の省力化、事務職配  
置の最適化検討）



## 心理的安全性の高い 職場風土の醸成

- ・ 所属内での挨拶を含むコ  
ミュニケーションの強化
- ・ 各所属のストレスチェック  
結果への対応とハラスメン  
トのない職場づくり

## Ⅱ 研修

① OJT教育メソッド向上：トレーナー制度との連動



② 法人の人財育成・キャリアパスの仕組みの改善：令和9年度に改訂版法人キャリアパス提示へ



③ 所属長研修：財務・経営の基礎知識を習得し、事業経営の視点を備えた管理者の育成へ

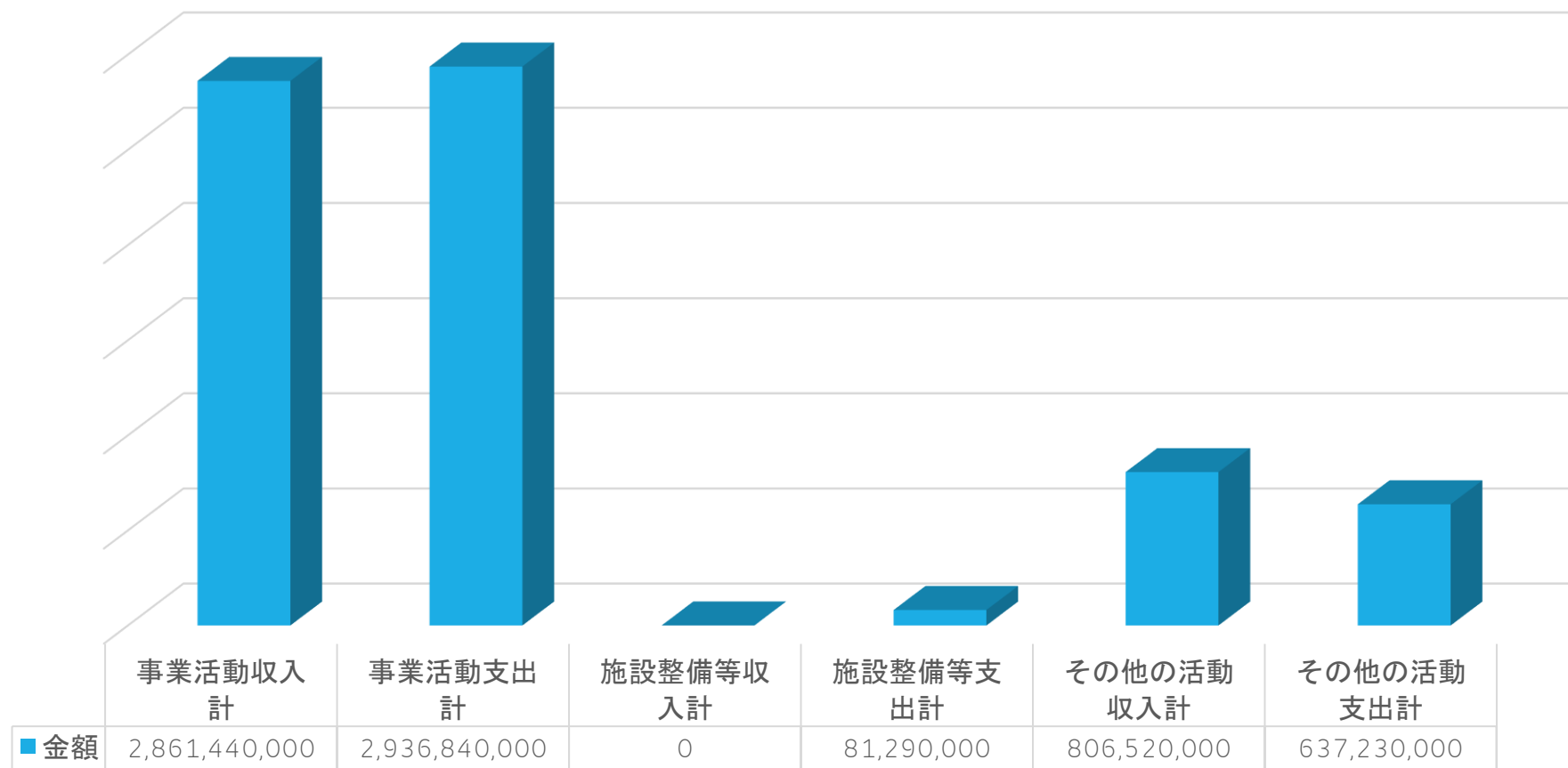
④ eラーニング（自閉症eサービス等）の共同利用：コスト削減と支援の質担保

### Ⅲ 事業予算の概要

令和8年度 事業予算総額(内部取引の繰入金収支を除く。)

【収入】30億4,000万円 (前年度当初予算比 約1億9,400万円の減額)

【支出】30億4,000万円 (前年度当初予算比 約1億9,400万円の減額)



## 【主たる事業予算の内容】

### 1. 加算申請、稼働率増加による増額（事業活動収入）

自立支援給付費収入（前年度当初予算比） 1億3,800万円増額

### 2. 3つの処遇改善加算の一本化に伴う給与改定による増額（事業活動支出）

人件費支出（前年度当初予算比） 5,100万円増額

### 3. 社会福祉充実計画（洛西ふれあいの里福祉施設再生事業第3期工事を含む。）の終了に伴う減額（事業活動支出・施設整備等収入及び支出）

修繕費支出（前年度当初予算比） 300万円減額

業務委託費支出（前年度当初予算比） 700万円減額

建物取得支出（前年度当初予算比） 1億100万円減額

建設仮勘定収入（前年度当初予算比） 1億6,600万円減額

建設仮勘定支出（前年度当初予算比） 1億6,000万円減額

### 4. 各種積立資産の取崩及び積立の実施（その他の活動収入及び支出）

積立資産取崩収入（前年度当初予算比） 1億7,100万円減額（事業予算）14拠点 1億7,900万円

積立資産支出（前年度当初予算比） 600万円増額（事業予算）5拠点 900万円

\* 目標の進捗確認：各所属の事業計画には、可能な限り数値目標や事業目標達成のための具体的取組の内容を記載し、重要業績評価指標を意識した経営分析を進めていく。

# IV 各事業の事業計画 (主な内容を中心に)



## A暮らす (施設入所・GH)

療護園、更生園、大原野の杜、ふれあいの里診療所、  
グループホーム北部、グループホーム西部



## B通う (生活介護)

授産園、洛西デイ、すずかけ、コスモス  
紫野授産所 (菜の花)



## C通う 就労継続B型・就労移行

紫野授産所 (さくさく工房)、花水木、  
桂授産園



## D児童

ポッポ、きらきら園、すぎのこ教室



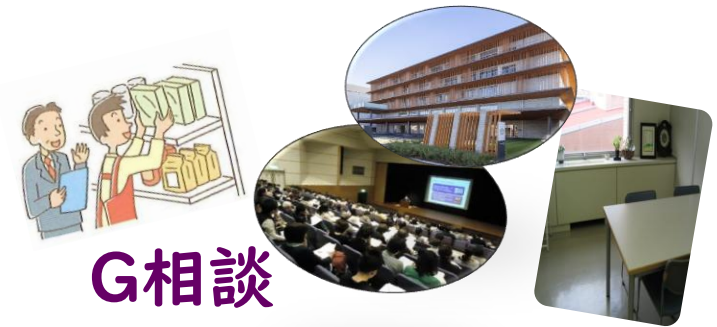
## E高齢

通所介護向日葵、居宅介護向日葵



## F居宅

鷹峯、榎原



## G相談

うきょう、らくさい、就業生活支援センター、  
かがやき



# A 暮らす（施設入所、グループホーム）

## ①地域移行及び施設外の日中サービス利用の意向を確認（R8から義務化）

すべての施設入所者に対して、地域生活への移行や日中活動系サービス利用の意向について確認し希望に応じたサービス利用になるよう支援（担当者、確認マニュアル、個別支援計画を作成）。

## ②医療的ケア体制の維持と生活環境の改善（療護園）

医療依存度の高い利用者（人工呼吸器、胃ろう、喀痰吸引など）への安全なケア体制を維持。  
医療的ケア対応2室の整備、男性居室・4人部屋を3人部屋へ改修。



## ③自閉症支援の専門性向上（更生園）

令和7年度末に整備した個室化・ユニットケア環境などを活用し、施設全体の利用者の暮らしの安定化と個々の取組内容を充実化。  
強度行動障害支援者養成研修・基礎研修修了者の割合を生活支援員の40%以上となることを目指す。





#### ④加齢により変化する利用者への対応（大原野の杜）

利用者の身体や認知機能維持のため、囑託医、理学療法士、看護師と支援職員が連携し日々の体調観察を重視するとともに、効果的な訓練プログラムを作成し日常の活動で実践。

#### ⑤電子カルテの本格運用とオンライン診療報酬請求（ふれあいの里診療所）

#### ⑥一戸建て（建貸し）ホーム、市営住宅空き室の福祉利用による新ホームの開設（グループホーム西部）

老朽化している円町ホームの閉鎖に伴い、新たに衣笠ホームを開設（2階建て 1階はシェアハウス、2階がグループホーム）  
（グループホーム北部）

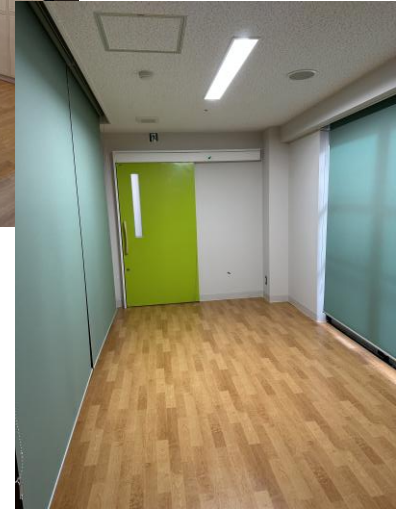




## B 通う（生活介護）

### ①環境整備など

- ・令和8年6月（予定）に新たにシェアハウスを開設。3室のうち、2室を重度障害のある方への住居として提供。1室はコスモスの活動場所として活用する（運用は、コスモス、鷹峯居宅、GH北部、事務局が連携・協力する。）。
- ・令和7年度末に整備した、けやきルーム・相談室を有効活用し、医療的ケアや強度行動障害者への対応を充実（洛西デイサービス）。
- ・すずかけ（福西商店街）とHOP農園プレハブの老朽化の改善に向け、一拠点化を含む今後の新たな活動場所の検討を行う（すずかけ）。
- ・新たな記録ソフトの本格活用により、スマートフォンを用いたリアルタイムな記録入力と情報共有を徹底。AIによる記録やアンケート等の集約、モニタリングや個別支援計画作成時にも補助的に活用する（コスモス、紫野授産所）。



### ②利用者の障害特性にあわせた支援の充実

- ・新たに新館1階を利用し、個別活動を重視した「にじいろグループ」を立ち上げる（授産園）。
- ・利用者や家族ニーズをもとに、一泊旅行を実施。日常活動ではできない取組を行う（コスモス）。
- ・喀痰吸引等第3号研修、強度行動障害支援者養成研修の取得推進（洛西デイ）。



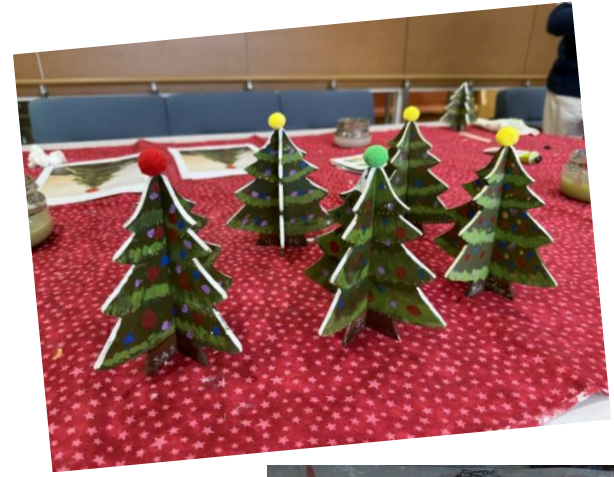
### ③利用者をアーティストに

法人内事業所の利用者が創作した作品を披露する機会をより多く創出する。令和6年度末に新設された授産園多目的ルーム、紫野障害者授産所・さくさく工房内のスペースを最大限活用するとともに、北山ふれあいセンターでの京都総合福祉協会・アートフェスティバル開催を企画検討する。



さくせんく展  
 — 画・描・刺しゅう制作の様子が  
 見られます —

2026年  
 2月20日(金)〜3月6日(金)  
 (土日・祭日は休み)  
 10時〜16時



(授産園、紫野授産所、花水木、コスモス、GH西部、  
 向日葵、ポップオなどの作品などから)



## C 通う（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）

### ① 就労支援内容の充実

- ・利用者目標や課題の共有、研修を通じたアセスメント力の向上、振り返りシートの活用などで支援力を向上する（桂授産園）。
- ・モバイルデバイスを用いた動画手順書を導入し、抽象的な指示を視覚情報へと置換する。一人ひとりの感性が最大限に発揮され、「自分たちの表現が形になる喜び」を実感できるユニバーサルな作業環境を構築する（紫野授産所B型）。
- ・パソコン作業を取り入れ、パソコンスキルの向上を目指す（花水木就労移行）。
- ・週に1回、就労移行のカフェを午前のみとし、午後は継続B型によるカフェを開催する。お客様への接客や食器洗浄作業など作業の幅を広げるとともに、他事業所の商品等を販売するマルシェも実施し、通常のカフェとは異なる趣とする（花水木B型）。



### ② 一人ひとりにあった就労支援

利用者の希望や特性を重視した企業マッチングにより、長く働き続けられる就労先を支援。

＜一般就労達成目標＞ 桂授産園：移行3名、B型1名 / 花水木：2～3名



## D 児童

### ①児童発達支援センターとしての地域における「4つの中核機能」をベースに、障害児支援における“入口支援”の役割を担うことに重点

R6年度より「4つの中核機能（①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能、②地域の事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能、③地域のインクルージョン推進の中核機能、④地域の発達支援の関する入り口としての相談機能）」を担っている。これを基本に、0歳児から3歳児の低年齢の療育や保護者支援を重視した取組を実施する。

### ②児童部門におけるDX推進

障害児通所支援システムを活用し、記録、計画書作成、給付費請求、保護者への一斉連絡などに取り組み、事務の軽減、業務内容の見直しを図る。

### ③安定した事業運営に向けた取組

- ・令和9年4月の指定管理選定に合わせて、事業運営の適正規模となるよう定員の削減（40名→30名）を検討する（きらきら園）。
- ・未就園児の通園希望減少への対策として、乳幼児健診後の紹介やはぐくみ室との連携強化、SNSによる発信などに取り組む（ポッポ）。





## E 高齢

### ① 居宅介護支援事業所向日葵の運営の安定化

長期的に高齢者支援を継続できるように主任介護支援専門員を中心に事業の安定運営を図る。月平均の目標利用者数：64件。

### ② ご利用者の思いの把握とやりがいの創出

個々の利用者の思いを適切に把握し、それを意識した支援を行う。利用者のやりがいを一緒に考え支える。個別機能訓練、学習療法、口腔機能に関する体操なども実施する（通所向日葵）。

### ③ 経営状況の健全化

- ・現在、未取得となっているLIFE関連加算の算定を目指す。
- ・物価高騰対策及び効率化のため、センター内での昼食調理（業務委託）について、弁当配食サービスへ切り替える。



## F 居宅

### ①事業の健全な運営に向けた取組

新たに運営するシェアハウスにおいて、コスモスや他事業所などから、男性利用者2名が入居予定で、日中活動以降の時間帯にヘルパー支援を行う（鷹峯居宅支援センター）。

### ②ヘルパーの確保

支援時間数の減少による大幅な減収が継続しており、事業存続に大きな課題を抱えている。新規利用者獲得を可能にするためにも、新規ヘルパー確保に向け集中的に取り組む。採用サイトや近隣大学、福祉系専門学校への募集活動強化などで新規ヘルパー4名の登録を目指す。

### ③支援の質の向上

前年度の利用者満足度調査で、スコアの低かった項目（例、事業所はサービス時間・内容に柔軟に対応してくれる。）を改善していけるよう、ヘルパーの確保ととともに、サービス提供責任者の機能強化を図る。



# G 相談

## ①重層的支援体制の強化、相談員の支援力向上

- ・重層的支援が必要なケース、これまで支援が届きにくかった事例へ関係機関と連携しながら支援提供を行う。また、社会福祉協議会と連携し「障害者向け居場所づくり会議」を企画する。
- ・令和8年度施行の高次脳機能障害者支援法を踏まえ、高次脳機能障害に関する制度理解及び支援技術の向上を図る。また、圏域内相談事業所に対して、主任相談支援専門員ネットワークを実践的かつ継続的に運営する（うきょう、らくさい）。

## ②就労選択支援事業の本格実施

自分にあった働く場所を探すため、作業体験や聞き取りを通じたアセスメントを実施。本人の強みを整理し、サービス事業所等の提案を行う（就業・生活）。

## ③WEB面談、特性アセスメントに関する案内・説明方法の改善

- ・継続面談や来所が困難な場合にWEB面談が可能なことを利用にあたっての資料で案内する。特定アセスメントの目的や流れを理解しやすくなるよう案内文章や説明会の内容を見直す（かがやき）。



# V SDGsの取組

- ・洛西ふれあいの里の施設 桂坂地域のクリーンデイを通じた美化活動
- ・更生園 ペットボトルキャップの仕分け(リサイクル活動)を通じた、NPO法人主催の子ども食堂の取組への協力
- ・すずかけ アルミ缶回収(リサイクル活動)
- ・グループホーム北部 不要食用油の回収を自治会活動への協力
- ・コスモス 不要なタオルや古着を北山ふれあいセンター内で回収し、ウエス(汚れ等をとる布)として再利用  
昼食やクッキングで出た食品廃棄物をたい肥化し、畑作業の活動で活用  
北山ふれあいセンター内で出たペットボトルやアルミ缶回収(リサイクル活動)
- ・紫野授産所 食品・資材などのロス軽減、レジ袋の削減  
商品ロス軽減ができてきているか過年度の廃棄量データと比較  
製菓の原材料として「フェアトレード」による材料の仕入れなどに継続的に取り組む
- ・花水木 仕入れ量を工夫しフードロスを削減  
ガーデニングチームによるハーブ栽培  
葵プロジェクトへの協力
- ・らくさい ふれあい食堂との連携  
食材支援プロジェクトとの連携



# 地域における公益的な取組(予定)

- ・ふれあいの里診療所 : 近隣福祉事業所へのインフルエンザ等のワクチン接種  
医療機関受診が困難な一部の通所利用者の医師意見書・診断書の作成
- ・洛西ふれあいの里の施設 : 桂坂自治連合会との共催による「桂坂オータムフェスタ」や、ふれあいの里周辺の他の福祉法人と協働した「ふれあいの里協力会」による地域住民との交流、福祉の普及・啓発活動
- ・洛西デイサービス、大原野の杜 紫野授産所、向日葵 : 地域小学校、中学校、高等学校などとの交流学习
- ・グループホーム : 生活保護受給者の体験利用時の自己負担分家賃の免除
- ・すずかけ : 芋ほり観光農園事業
- ・うきょう : 障害のある青年たちの学習会や子どもの発達に不安がある保護者のサロン
- ・らくさい : 食材支援プロジェクトへの参加
- ・かがやき : 市民を対象とした発達障害の方への理解と支援を学ぶための市民研修会
- ・コスモス : ベルマーク回収と近隣小学校への寄付

- ・花水木 :75歳以上の高齢者及びきょうと子育て応援パスポート提示者へミニサイズドリンクの無償提供
- ・紫野授産所 :地域の子ども食堂に焼菓子が無償提供
- ・きらきら園 :市民が子育てについて相談ができる「見学・子育て相談」の実施  
大学教授とのコラボレーションで、子育ての不安や悩みをもつ地域の親子対象の「親子あそびのひろば」を実施
- ・ポッポ :葵児童館実施の「はなまる子育て相談」にて保護者へのアドバイスや情報提供
- ・向日葵 :地域の各種団体や地域包括支援センターと連携した認知症カフェ、認知症サポーター養成講座の共同開催
- ・北山ふれあいセンター内事業所 :北山ふれあいセンターまつり、防災イベントの運営  
五山送り火鑑賞として、北山ふれあいセンター3階テラスを地域資源として地域住民に新たに提案



# 令和8年度の目指す姿

「人（職員）」と「技術（AX）」の融合により、  
「時間」を作り、「心」を注ぐ。

